

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400376		
法人名	有限会社 ハートケア なごみ		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	〒807-1311 福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧字西牟田1969 TEL0949-43-1753		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果確定日	平成23年03月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年02月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

遠くに山並みが見えて周りには田園が広がりゆつくりと穏やかな時間を過ごし、新鮮な食材を使い料理を提供し、食事バイキングでは利用者やご家族も楽しまれている。今後も個別ケアを重視し利用者の方々にその人らしく明るくいつも笑顔で普通の暮らしができるよう支援していきます。

グループホームなごみは、珍しいメダカが、生息する自然環境に恵まれた田園地帯の中にあり、「利用者が、その人らしく、明るく、いつも笑顔で、普通の暮らし」が出来る支援を目指し、代表が、率先して職員と一体で取り組む様子は、見る者を和やかにし、家族がホームに寄せる信頼は深いものがある。特に、自立支援の取り組みと、料理が得意な職員の調理や、24時間医療連携による健康管理により、心身機能の維持、向上を目指し、利用者は安心して日々の暮らしを充実したものにしている。また、ホーム広場を、町内の盆踊りに開放したり、家族交流会では、職員自慢のバーベキュー等、開設6年目を迎え、地域住民との交流も活発で、穏やかな環境の中、利用者がメリハリのある生活が出来るように、様々な工夫がされている「グループホームなごみ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う <input type="radio"/>
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う <input type="radio"/>
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、運営理念を唱和確認し、実践している	事業所独自の理念、目標をリビングや事務所に掲示している。管理者と職員は、申し送りやミーティング時に唱和し、確認し合っ、意思統一するなど、実践へ向けての取り組みがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで挨拶を交わし近隣の方より畑でできた季節の野菜などを分けていただいたりしている	日常的な散歩や買い物などで、地域の人たちと挨拶を交わし、話をしたりしている。地域住民の一員としての町内会へ加入し、行事等を通して活発な交流が行なわれており、近隣に住む人達と触れ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会特別会員として加入しており地域の夏祭りの参加や盆踊りなどホーム前の庭にて開放している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を実施しており運営推進会議での御家族、地域の方の意見や情報等をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は関係者出席のもと、2ヶ月に1回定期的を実施されている。会議は、ホームの運営状況や具体的な課題について、活発な意見交換の場になっていて、出された意見、要望はホーム運営に反映されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催のふれあいフェスタへの参加に取り組んでいる	運営推進会議に行政担当者の定期的な出席があり、ホームの実情やサービスの取組みなどについての理解は得られている。また、町主催の行事には、ホームからも積極的に参加し、協力関係を築く様に努力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、ミーティング等を行い鍵をかけないを理解し玄関などの施錠はしていない	利用者の安全で自由な暮らしの実現に向けての、職員の見守りや声かけの支援などにより、拘束しない介護が実践されている。夜間を除く鍵をかけないケアを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に研修、ミーティングで取り上げて虐待防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域交流会等の研修に参加しグループホームでの勉強会にて学ぶ機会を持ち必要な方には話し合いを行い支援している	現在のところ、権利擁護に関する制度の活用事例はないが、普段から研修や勉強会などで理解を深めている。また、利用者、家族からの制度利用の要望があれば、いつでも対応し、支援ができるよう取り組みがなされている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時の説明し十分に行い理解を頂いている	
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口、苦情箱の設置を行い職員等に言いやすい雰囲気づくりに努めている	意見箱の設置、「なごみ通信」の発行、家族会(バイキング)などを通じ、利用者・家族の意見・要望が気軽に言える雰囲気づくりに努めている。そこで得られた意見を運営に反映させるよう努力している。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、ミーティング時での意見や提案等を確認している	代表者・管理者は、朝礼、ミーティングなどを通じ、職員の意見・要望・提案などについて協議・検討し、ホーム運営に反映させる取り組みが行なわれている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の話に耳を傾け、各自がやりがいを持って働けるように努めている	
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたり性別や年齢不問での求人を行い能力を発揮できるように配慮している。休み時間もきちんと取り気分のリフレッシュを図っている	職員の採用は、年齢、性別等の制限は設けていない。また、採用後の職場環境への配慮や、スキルアップ研修の実施、職員の能力発揮や社会参加・自己実現ができるような取り組みが行なわれている。
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修等の情報を勉強会にて取組んでいる	理念に謳っている「生き生きと自分らしく尊厳のある生活」の徹底に留意して、利用者の人権を尊重する取り組みが見られる。また、職員の人権研修・啓発活動は定期的実施されている。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習の情報を伝える機会や日程の確保を積極的に取組んでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている取り組みをしている	グループホーム協議会、徘徊ネットワークに加入し、他ホームとの交流もあり行事参加もおこないサービスの質の向上に取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をしていただき生活暦や不安等を聴き早く信頼関係が築けるように努力している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけてゆっくりと傾聴しご家族の不安や求められること受け止めるよう努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め自立支援に向けた対応をしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事の際などに声をかけをし参加していただいている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室にてゆっくり過ごしていただきいつでも気軽に来訪していただける雰囲気づくりを心がけている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪時は居室でお茶を飲まれながらゆっくり会話を楽しんでいただける様支援している	アセスメントやケアプランに基づき、利用者のこれまでの生活習慣に配慮しながら支援している。また、家族、知人の来訪時に情報の提供を受け、馴染みの場所や人との関係継続への取り組みが見られる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの参加の声かけなどにより会話しやすい雰囲気作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地区で顔を合わすとあ話や挨拶をし連絡などがあれば相談し、いつでも来園できるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティング、日々の申し送りの際に一人ひとりの意向の把握に努め検討できるようにしている	利用者一人ひとりの意向の把握は、ケアプランやミーティング、申し送り等を通じて把握・検討している。把握が困難な場合は、家族に相談したり、利用者とはゆっくり話す時間を持つなどして、出来るだけ意向に副えるように工夫している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族にアセスメント、面談、スタッフからの情報により生活歴の把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、血液検査、往診、受診日の心身状況等の把握に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援方法、意見交換を行い家族と相談の上、モニタリング、介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の意向に沿って関係スタッフ参加のもと、ケアカンファレンスを行い検討されている。3ヶ月に1回の見直しも実施され、現状に即したケアプランが作成されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケア記録の記入、申し送りにより情報を共有化し、実線や介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に対し柔軟な支援を心えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの来訪、消防機関と協力しながらああ安全な暮らしが楽しめるよう支援している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向に応じた適切な医療が受けられるように支援している	受診については、利用者、家族の意を大切に、希望に応じたかかりつけ医、提携医で対応している。提携医の町立病院とは、24時間対応が可能な体制が確保されている。定期的に訪問歯科受診など適切な医療、看護が受けられる支援体制が出来ている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員(准看護師)に相談しながら適切な受診や看護が受けられるよう支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が定期的に訪問し主治医や看護師、相談員とや家族と話し合いアドバイスを受けながら早期退院に向け支援している		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、医療との連携により話し合い、方針を共有している	現状では看取りの事例はないが、利用者・家族が安心して暮らせるよう、重度化や終末期の対応について、看取りの指針やマニュアルの整備が行なわれている。職員間での共有や家族への説明も実施されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の職員による応急手当などの訓練を受けている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い避難誘導ができるよう訓練し地域の消防団との連携もお願いしている	防災訓練は、年2回定期的に行われている。防災マニュアルの整備や、職員に対する防災研修への取組みも適宜実施されている。	地域住民の協力のもと、夜間を想定した避難訓練の実施や、災害に備えた非常食、飲料水、毛布等の準備などが望まれる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声かけや対応に十分に気をつけながら支援している	管理者・職員は、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重した接遇・声かけを行なっている。個人情報やプライバシーの保護についても、細心の注意をし、慎重な支援、取り組みが行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり働きかけ自己決定ができる支援を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに声かけにより希望に沿った支援をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを支援している(出張理容)		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備、食事、片付けなどを行っている	利用者と職員が同じテーブルを囲み、和やかで自然な雰囲気の中、さり気ない支援が行なわれている。衛生、栄養バランス、家庭的なメニューや味付けなど、食事を楽しめる工夫がなされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量ができているか管理表にて状態の把握を行い栄養バランスが取れるよう支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや一部介助など一人ひとりに応じた支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄パターンを把握し、声かけを行い失敗を減らしトイレでの排泄を支援している	利用者、一人ひとりの排泄パターンや生活習慣に基づく個別支援の取組みが行なわれている。意思表示の困難な方については、早めの声かけ、誘導、清潔保持など自立へ向けての支援が行なわれている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の物をできるだけ食事に取り入れる工夫や軽い運動などに取り組んでいる		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミング、心身の状況に応じ支援している	利用者一人ひとりの希望や体調に合わせて、入浴支援が行なわれている。毎日入浴できるようになっているが、基本的には隔日ごとの入浴となっている。入浴が困難な場合は、清拭等で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室やリビングにての休息、くつろげる空間により支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	血液検査を定期的に行い主治医と相談しながら一人ひとりの服薬の目的を理解し服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし能力に応じた役割、レクリエーションへの声かけにて支援している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、外食など希望に沿えるよう支援し、又、家族の協力を得るよう支援している	利用者一人ひとりの、希望に添ってレクリエーション、買い物、外食、外泊等、家族の協力を得て、積極的な外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じ買い物自我管理可能な方は所持し使えるよう支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話は使用されたり手紙を書くお手伝いを支援している		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂の天井は吹き抜けて日差しを受け周りは静かな田園が広がり季節感が味わえる共有空間である	珍しいメダカが生息する周囲は、緑豊かな田園風景で、明るい陽射しを受けたリビング、食堂などの共用空間はお雛様飾りが陳列され、穏やかで、温かいく、利用者が、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、リビングの所々に椅子やソファを置き会話を楽しんだりゆっくり過せるよう工夫している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れた椅子、好みの座布団や寝具をど持参され本人が居心地良く過せるよう工夫している	家族の協力を得て、利用者が、入居前に使用していた馴染みの家具、調度品等を持ち込み、本人が居心地良く過せるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることを一人ひとりに合わせ自立した生活が送れるよう工夫しています		